

台湾方面部隊略歴

1543

独立速射砲第十六大隊

年月日	概	要
昭二〇 九 一〇 二二 二一九 三三	出港地 高雄 (昭和二十一年三月三日) 上陸地 鹿兒島 (同 三月五日) 郭隊終戦前後の状況 終戦前 高雄州潮州郡下にありて主力は歩兵中三百二連隊一部は歩兵中三百三連隊に配属され陣地構築並に同地方の防犯を担当す 終戦後 現地入隊者約部隊の六割は除隊(召解)す 部隊は復員を完結 歩兵中三百二連隊に転属す 爾後同連隊の指揮下に在りて高雄州潮州郡枋寮庄水底寮に集結し自活のため農耕軍需品の奉還等に従事し 帰還のため高雄に集結し 乗船帰国す	

(35/)

1544

年月日	概 要
昭一九八五 一一一 二〇九一 九一〇	編成当時より終戦後に於ける部隊行動経過の概要 台湾高雄州鳳山街鳳山に於て編成完結し、同地方防衛を担任す 高雄州潮州郡下に移駐を完了し陣地構築並同地方の防衛を担任す 復員下令 復員完結 歩兵第三連隊に転属

(352)

1545

野戦機関砲中隊

年月日	概要	要
昭一九七二五	編成行動の概要	
七二六	千葉気球中隊運送に於て編成に着手	
〃	編成完了	
〃	台湾派遣のため千葉出発	
八三	門司港出発と同時に台湾軍令官の隷下に入る	
〃一六	基隆港上陸	
〃一七	高雄州屏東着と同時に野戦高射砲中隊八十三大隊長の指揮に服し南飛行場に位置し航空隊防衛に任ず	
一一一	オハ飛行師団長の指揮下に入り同時に三九航空地区司令官の指揮下に入りしめらる防衛戦中台湾並南西諸島に於ける天号航空作戦等を経て終戦に至る	
二〇九八	部隊復帰を令せられ	
九一〇	三十九航空地区司令官に転属	
	爾後同司令官中隊となり司令官と共に高雄州屏東那里港庄に転進し台湾製糖会社彭厝寮場の一部を借用し農耕作業に従事する一方屏東及同	

(353)

1546

年 月 日	概	要
昭二一 一 一	飛行場の復旧作業に主力を進出	復員下令と共に業務上野戦機関砲五十七中隊に復歸し
一 六	屏東集結	
二 二 六	高雄集結	
三 九	同港出飛	
三 一 五	大竹港上陸完結に至る	
復員状況及残置部隊の概況		
九三九航空地区司令官の輸送指揮を受け一名の事故及患者の発生と も見ず、乗船地勤務隊要員として五名、九師団司令部に一名の転出 ありたる以外残置者もなく整齊復員を完結		

第一野戦築城隊

年月日	概	要
部隊の状況 終戦前 台湾才十方面軍直轄部隊として台北州淡水附近に於て淡水地区永久陣地構築作業に従事す 終戦後 九月末日迄で淡水に在りて治安警備に従事し爾後台北市に移駐し中国進駐軍の宿營設備並中国才七十軍の兵舎復旧作業に従事す 編成以降部隊の行動経過の概要 愛知県豊橋市工兵才三連隊補充隊に於て編成を完結し 台湾軍の戰鬥序列に納入せしめらる 基隆港上陸爾後嘉義市（九月二十五日迄）及高雄州鳳山附近（十一月三十日迄）に於て陣内交通路並彈藥格納庫構築作業に従事す より台北州淡水附近に移駐し淡水地区永久陣地構築作業に従事し終戦に至る		
昭和一九三七二三 八一〇 八二四 一二二		

(355)

1548

年 月 日	概	派
昭三 二一六 三七	復員完結 大尉 紫山利春 少尉 長井弘之 右三名は残務整理のため台北残留 帰還	大尉 安田良雄

(256)

1549

独立自動車第二一中隊

年月日	概	要
昭一九七六	部隊の状況	終戦後
七三二	終戦前	主力は台北州七星郡北投街に位置し、台北並新竹地区の軍需品分散疎開輸送並に陣地構築作業に協力す
八三	終戦後	終戦後も前記傾圮に位置し奉還兵器、軍需品の台北市内への輸送に任ずると共に進駐軍の輸送に任ず
八一六	終戦後	編成以降部隊行動経過の概要 陸軍省勅令四八号により動員下令 近衛搜索連隊補充隊に於て動員完結 門司港灣出発 台湾軍の隷下に入る 基隆上陸

(357)

1550

年 月 日	昭一九八七	台北州七星郡北投街に位置す。	概
二一 二五	復員完結	爾後台北周辺の諸輸送、飛行場設定、陣地構築作業に協力中終戦に至る。	要

(358)

1551

独立自動車才二一四中隊

年月日	概	要
昭一九七二四	編成	東京都世田ヶ谷区東部才十部隊（近衛投索運隊）にて動員完結 中隊長 陸軍大尉 森谷惣一郎以下一八三名 自動車貨車 四八輛
八一一	指揮線辰系統	
才十方面軍		
二〇九二二	台湾軍管区司令部	
一九八一	行動概要	基隆上陸、台南州新化に駐屯、才十方面軍の築城資材及軍需品の輸送に従事
二〇五		台北州に移動、同じく台北州下の輸送に従事
二一		終戦後台湾電力公司復旧作業に協力
二一		復員下令

(359)

1552

年月日	
概 要	昭二一 一 一 復員状況 台北市円山町中国側指令に基く集中營に於て復員下令 中隊長 陸軍大尉 岸本輝義以下一六〇名基隆に集結 同港出帆 三一 一 広島県広島に上陸 三一 六 復員完結 残置部隊 忘し 三一 七

(369)

1553

野戦重砲兵第十六連隊

年 月 日	概 要
昭二〇 六	部隊の状況
一九七 六	終戦前
	台湾南部オ五十師団防禦正面たる枋寮地区の陣地構築並警備に従事 オ五十師団の配属を解かれ連隊主力（連本・一大隊・連隊の一部）はオ 九師団配属となり新竹楊梅附近の陣地構築並警備に連隊の一部（一大隊 連隊の一部）はオ十二師団配属となり高雄州鳳山郡九曲堂附近の陣地構 築並警備に従事しあり
	終戦後
	終戦に伴い連隊主力は高雄州旗山郡下に於て自活の爲農耕に従事、 一部（二百五十名）は高雄州鳳山郡鳳山厝に派遣し製糖会社農耕に一部 （二百五十名）は台南州新營郡葛樹林に於て製糖会社農耕に従事す 編成以降部隊の行動並経過の概要 動員下令 東京都世田ヶ谷区東部オ七十二部隊に於て

(361)

1554

昭一九七二八	新成完結
八一八	東京出發
八一九	門司出帆 才十方面軍戰鬥序列に入る
八三六	基隆上陸爾後台南州嘉義市附近の警備並枋寮地区才五十師団に配属、同地附近の陣地構築作戦準備に
二〇 六以降	連隊主力は新竹州下才九師団の一部は高雄州下才十二師団に配属せられ同地附近の陣地構築作戦準備に従事、才終戦に至る
一一 三一	終戦後部隊は高雄州鳳山郡鳳山附近に集結を命ぜられ爾後旗山郡下に就て自活中
一一 三〇	内地帰還の爲高雄市内集結
一一 二一	高雄出帆
一一 二八	鹿児島上陸部隊の復員と完結す

(3/2)

野戦機関砲才五十八中隊

年月日	概	要
昭一九七三	部隊の編成行動の概要 内地又は駐屯地（朝鮮、満州等）出発時の編成及其後の指揮系統改 編等の変遷行動の概要 和歌山原加太重砲兵才五連隊に於て編成完結、総員一〇五名 台湾軍の戦斗序列に入り 屏東に進駐同飛行場の防空に任じありしも 命令に基き八飛行師団に配属才三十九航空地区司令官の指揮下に入り 野戦高射砲八十三大隊長の指揮を受く、引続き防空に従事す 台湾防空戦斗に参加 小港飛行場の防空を命ぜられ陣地変換終戦に至る 当隊は独立中隊にして全員予備役補充兵役、国民兵役に依り編成され 総員一〇五名中三二名は大阪附近の防空部隊に応召中のものより転属せ しものなり	
八一		
八七		
九初旬		
二〇三		

(363)

1556

年 月 日	概 要
昭 二 〇 一 二	復員状況及残置部隊の概況 終戦後台湾鳳山郡小港庄に位置し周辺台湾製糖株式会社牧塵林工場用地を借用し、農耕を主とせる現地有活態勢に入りありたるも 屏東に集結 中国空軍の増役に服しありたり 内地帰還の島高雄に集結を命ぜられ 屏東出発 高雄陸軍倉庫に待機 乗 船 三 八 一 五 大竹上陸復員完結す 終戦時の総員 一〇二名

(364)

1557

野戰機関砲中隊

年 月 日	概 要
部隊の状況 終戦前 台湾台南州東石郡大保庄嘉義飛行場に位置し軍直轄部隊としてヲ五十三地区部隊に配属嘉義飛行場の防空に任ず 終戦後 終戦に伴い依然東石郡大保庄に位置しヲ百五十六飛行場大隊に転属を命ぜられ明治製糖会社所有地を借用して自活態勢に移り農耕に従事す 編成以降部隊の行動経過の概要 舞鶴重砲兵連隊に於て編成を完結し ヲ十方面軍の戦斗序列に編入せられ台湾防犯と命ぜらる 基隆上陸爾後台南州嘉義飛行場防空を命ぜられ終戦に至る 復員完結	一九二一 二〇一一 二一三二

(365)

電信才三十四連隊

年月日	概	要
昭一九四	部隊の編成行動の概要（その一）	
七二一	軍令陸甲四九号により台湾軍通信隊臨時編成下令	
八一	編成完結 台湾軍司令官の隷下に入る	
八一	於満州編成せる独有の一〇五、一〇六、一〇七、一〇八中隊並に	
八一	独無一〇五、一〇六、一〇八小隊到着と共に台湾軍通信隊長の指揮下に入らしめ	
一〇一〇	らる	
一〇一〇	前項各有無線独立中（小）隊と合せ才十一通信隊を編成、同時に才十方面軍司令官の隷下に入る	
二〇一〇	軍令陸甲一一号により電信才三十四連隊臨時編成下令	
二〇一〇	編成完結 才十方面軍司令官の隷下に入る	
	右の如く部隊の主力を台北に置き台湾に於ける（九、六六師、七五、一〇二、一一二旅方面軍直轄防区担任区域即ち嘉義以北）管轄有無線通信、大本營、隣接軍との無線通信連帯の構成保守に任ず	

(286)

1559

二〇	九二	復員状況及残置部隊の概況 台北周辺に各中隊別分散駐屯しありて 台湾よりの入営底石者を には台湾に縁者を有し生計確実と認めらるる者を現役除隊並に召集解除す 台北市円山町、旧台北陸病院に集結す 此の間台中州ニ林に才三中隊を現 地自活に他は現任務続行 並中国軍の要請する通信作業に従事部隊集結 復員待機間前記諸業務戦災復旧に任じ 部隊は基隆に集結（現通信即ち上記各部隊派遣有無線要員を転展せしめ） 基隆乗船地司令官の指揮下に入る 連隊本部將校以下七九名出発す 台湾基隆 出港 似島上陸復員
九二	九二	
一七	一七	
二一	二六	
三〇	三〇	

(367)

1560

電信才三十四連隊

年月日	概	要
昭一九七 一〇 八一	、部隊の縮成行動の概要（其の二） 満州東安に於て独立有線や百十三中隊縮成完結 台湾軍通信隊長の指揮下に入る	
二〇 二二 二二	中十一通信隊長の隷下に入る 電信才三十四連隊に編入	
一九 七一 二二	満州東安出發 基隆港上陸	
八 一一 二七	花蓮港上陸同地駐屯	
二〇 三 三八	花蓮港出發	
三 一 一〇	台北着海山郡中和庄防禦に駐屯	
八 一 四	復員概況残置部隊の状況	
九 二 二	停戦詔書発布 停戦協定締結	
二 一 一	電信才三十四連隊復員下令	

(358)

1561

三 一 六	内地帰還の島基隆港出帆
三 二 四	大竹港上陸
残置部隊 なし	但し右は電信ヲ三十四連隊ヲ二中队の概況とす
四中队 船二隻 三十八日 田辺上陸	

(349)

1562

独立工兵第四十二連隊

年月日	概	要
一九、一二、三三	部隊の状況 終戦前 虎兵団が三、次輸送部隊として、内司港出帆、比島に向け前進中状況の悪化により台湾高雄に上陸、爾後高雄要塞及新竹州鶯歌地区の陣地構築作業に従事す	
	終戦後 部隊は台北に移駐、中国が七十軍の指示により都市復旧工事並に清掃作業に従事す	
昭二〇、一二、二〇	漸次以降部隊の行動経過 軍令陸甲が二九号に拠り独立工兵第四十二連隊臨時縮成下令	
昭二〇、一二、二五	縮成完結、爾後が十方面軍司令官に隷す	
昭二〇、一二、二七	陣地構築のため台北出發、同日より鶯歌地区陣地構築作業に従事す	

終戦後は中国や七十軍の指揮に依り都市（台北）破壊箇所の復旧並清掃 作業に従事す	二一
台参復オ一ロ一号に拠り独立工兵オ四十二連隊復員下令	一七
基隆港出帆	一六
鹿兒島上陸	一一
復員完結	二二

(371)

1564

独立自動車第三五四中隊

年月日	概	要
昭和一一・一一・二二	駐屯地 台湾 台中 外地出發港灣 基隆港 外地出發年月日	
二二・七	上陸地 大竹 上陸	
	部隊終戦前後の状況 オハ飛行師団の指揮下に在りて兵器資材弾薬及糧秣等並に現地自活用資 材の輸送業務に任ず	
二二・二・二五	編成当時より終戦後に於ける部隊の行動経過の概要 軍令陸甲ヲ二九号により独立自動車第三五四中隊編成せらる（オハ飛 行師団の指揮下に入る）	
自 二二・三・二六 至 二二・六・二二	天号航空作戦	

(322)

1565

	二一	一一	一七	一三八	一一	一二
終戦後は中国や七十軍の指揮に依り都市（台北）破壊箇所 の復旧並清掃作業に従事す	台参復冲一〇一号に拠り独立工兵中四十二連隊復員下令	台北出發 同日基隆着	基隆港出帆	鹿兒島上陸	復員完結	

独立自動車第三五四中队

年月日	概	要
昭和一一・一一・二二	駐屯地 台湾 台中 外地出發港 基隆港 外地出發年月日 上陸地 大竹 上陸	部隊終戦前後の状況 ヲハ飛行師団の指揮下に在りて兵器資材弾薬及糧秣等並に現地自活用資 材の輸送業務に任ず
二二・一一・二七		編成当時より終戦後に於ける部隊の行動経過の概要 軍令陸甲ヲ二九号により独立自動車第三五四中队編成せらる（ヲハ飛 行師団の指揮下に入る）
自 二二・一一・二六 至 二二・六・二二		天号航空作戦

(322)

1567

自
至
二
〇
八
六
二
五

作戰準備

右の期間中ハ飛行師団の指揮下に在りて台北並に台中地区に於ける兵器
資材並彈藥糧秣等輸送業務に任ず

終戦後に於ては奉還兵器及現地自活用資材糧秣の輸送業務に任ず
(台中地区に於て)

(373)

1568

独立鉄道第九大隊

年月日	概	要
二 一 五	部隊状況	終戦前
昭 ニ 一 六	上陸以来爆薬に依る鉄道被害復旧作業に従事し終戦に至る	終戦後
	終戦と成りし後も依然として鉄道復旧作業に従事し、其の向十月南部に於ける風水被害鉄道復旧作業に全力を集めし、これが終戦と共に自活の爲各隊は局鉄並に製糖会社線被害復旧作業に従事なし、内地帰還に至る	
	編成以降部隊の行動経過の概要	
	千葉市鉄道第一六連隊に於て仮編独立鉄道大隊を編成し台湾に向け出発せるも内司より乗船の途中不幸にして鹿児島湾に於て敵潜水艦の攻撃により部隊の三分の一の兵力を失へり	
	其の後、基隆到着後	
	軍令陸甲第一五号に依り独立鉄道第九大隊を編成を完結し、人員不足は	

(374)

1569

自
至
二
〇
八
六
二
五

作戰準備

右の期間中ハ飛行師団の指揮下に在りて台北並に台中地区に於ける兵器
資材並弾薬糧秣等輸送業務に任ず

終戦後に於ては奉還兵器及現地自活用資材糧秣の輸送業務に任ず
(台中地区に於て)

40

(373)

1570

年
月
日

概

娶

終戦前

終戰後

編成以降部隊の行動経過の概要

其の后、基隆到着後

軍令陸甲才一五号に依り独立鉄道才九大隊を編成を完結し、人員不足は

昭二六

二
一五

一部は本属出身者を以て補充せり
尚本大隊は、基隆上陸と共に直ちに同港臨港鉄道建設作業に従事し、其
の後主力は中央部たる台中州員林郡田中街に位置し、北部新竹と南部鳳
山に一個中隊を夫々派遣し空襲に依る被害復旧を迅速に遂行する一方各
地機関庫並に松山鉄道工場に於て、各得業教育を実施し台湾鉄道輸送機
関確保に遺憾なきと期したり

(375)

1572

才五〇三特設警備自動車隊

年月日	概要	要
昭二〇 一一四	部隊歴史の概要 編成下令	
一一五	編成委員長 才十方面軍兵器部兒玉中佐 才十方面軍参謀部に於て編成に着手 独立自動車才三百八中隊より当隊常置員要員として陸軍少尉坂本吉雄他 兵科下士官三名 才十方面軍司令部に出席編成委員長の指示を受く (一一四台参動才三三号)	
一一七	常置員台南市に至り編成に着手	
一一三	編成完了 才十方面軍司令官の兼下に入り才五〇野戦輸送司令官の指揮下に入る (一一三台作命才一一三二号) 常置員当隊に転属 宿務地を台南市竹篙厝六五六台湾総督府西部棉作指導所内に定む 陸軍中尉山名繁男当隊警備召集待命を命ぜらる(一一二〇)当隊長を命ぜ	

(.376)

1573

四 一五	四 一	三 三三	二 一五	二 一三	二 一〇	二 五	二 二
らる（一、三一） 軍医予備員陸軍衛生曹長吉村喬当隊警備召集待命を命ぜられ（二、二〇） 当隊附と命ぜらる（二、三一） 基幹要員十四名臨時召集に依り入隊す 才一号召集要員及車輛に対し一週間の教育警備召集及徴発を令す （二、二四台参動才七二号） 輯重兵才十連隊附陸軍少尉北尾安夫当隊附となる 才二号召集要員及車輛に対し一週間の教育警備召集及徴発を令す （二、二四台参動才七二号） 当隊附陸軍少尉坂本吉雄台湾軍鉄道司令部附となる 部隊人員車輛の約三分の一を約二ヶ月間の予定を以て警備召集徴発す （三、一六 台参動才四三九号） 隊長陸軍中尉山名繁男臨時召集せらる 宿營地を曾文郡客田庄客田国民学校に移す 台南市附近に於ける軍需品の分散疎開に従事 （三、二七、五〇輸休命才三一号） 才四十軍に配属陽輸送勤務隊長の指揮下に入る （四、一六陽休命才十二号 四、一八台一三八二六休命才九号）							

(377)

1574

年月日	概 要
五 二	嘉義市附近補給請願の軍務函分散疎開に従軍（五二台一三八二六作命ヲ十一号）
五 一 五	ヲ七十一師団長の指揮下に入る（五一六台一三八二六作命ヲ十七号）
五 二 五	召集期間満了に付召集徴発を解除し、新二部隊人員車輛の約三分の一と召集徴発す（三一六台参勤ヲ四三九号）
五 三 〇	宿營地を嘉義郡中埔庄中埔国民学校に移す
七 三	ヲ十方面軍の隷下に復帰（五二三台作命丁ヲ二四六号）
九 八	当隊附軍医予備員吉村喬臨時召集せらる 現地復員

(378)

1575

臺北陸軍病院（中壢分院）

年月日	概 要
昭二〇 九 二二 一二 一六	部隊の情況 終 戦 前 臺灣新竹州中壢郡並大溪郡に在りて中九師団中一野戰病院とりて同地附近駐屯部隊の傷病者の收療業務に任ず 終 戦 後 終戦後依然新竹州中壢郡並大溪郡に在りて患者の收療業務と続行する傍り附近官有地及私有地を借用（一部は大溪郡阿母坪に於て私有地を借用）して自活の爲農耕に従事す 部隊へ中九師団長の隷下を脱し台北陸軍病院長の指揮下に入り中壢分院として依然現編成の儘同地に在りて收療業務を続行す 兵器、衛生材料糧食品の中國側との接收業務を了す

(379)

1576

年月日	概要
昭二〇 一二 二五	病院業務を肉鎖す
一九 六 二二	縮成以降部隊の行動経過の概要 満洲国東滿総省牡丹江市に於て東滿三十二箇部隊より抽出せられ部隊長以下二六四名ヲ九師団ヲ一野戦病院要員としてヲ九師団司令部に転属同日縮成完結ヲ九師団長に懇し冲絶防犯の爲転用せらる 冲縄原那覇港上陸後同島尻郡真和志村に病院を開設傷病者の收療に任ず
七 二二	米軍南西空襲の際傷者救護の爲同戦斗に参加す 軍令陸甲ヲ一三三号に依り臨時動員下令 ヲ九師団ヲ一野戦病院として臨時動員完結す ヲ九師団台湾転進に伴い
一〇 二五	病院を肉鎖す
一〇 二七	台湾転進の爲那覇港出發 基隆港上陸新竹州中壢郡並大溪郡に於て病院を開設傷病者の收療業務に任じ終戦に至る 軍令に依り那覇城の儘ヲ九師団長の継下を脱し台北陸軍病院長の指揮に
九 二二	

二
三
五

屈し中歴分院として依然患者收療業務に任ず
病院業務を閉鎖す

(381)

1578

台北陸軍病院

年月日	概	要
昭和 二一 四 二 四 三	部隊終戦前後の状況 病院は昭和十九年九月より逐次疎開を実施し昭和二十年四月終了の作戦に即応せる態勢を確立せり 病院縮成担任 左記病院並に衛生部隊の縮成を担任す イ、ヲニニ一矢站病院（台湾ヲニニ一三八部隊） ロ、ヲニニ二矢站病院（台湾ヲニニ一三三六部隊） 終戦後の行動 終戦後ヲニニ一及ヲニニ二矢站病院及北投航空病院は当院に復帰し、更にヲ六六師団ヲニ野戦病院及ヲ九師団隷下各野戦病院及防疫給水部は当院の指揮下に入りしめらる、当院は前記各衛生部隊を指導して復員業務を遂行四月十四日を以て完了せり 基隆出港 鹿児島上陸 居留民帰還輸送に対する協力 居留民遷者約四〇〇名を収容し之をその家族と共に熊野丸にて全員内遷せしめたり 二、四、二五 鹿児島上陸	

(382)

1579

台南陸軍病院

年月日	概要
明治三十七、八年 二九 四四 四九	部隊の履歴の概要 戦役後初めて台南に守備隊を置かれ混成第三旅団を編成せらるるや其の隷下部隊たる鳳山衛戍病院として 福岡県小倉町に於て編成せらる 打狗港に到着したるも、状況により安平港に赴き当時土匪討伐南進軍たる第三師団の台南舎營病院に宿營す。次て同病院の建築物及び收容患者に十三名と引継ぎ 台南衛戍病院と改称す。 爾來五十年悪疫猖獗を極め土匪出沒する。台湾南部に在りて守衛唯一の衛戍病院として、或は要地に数ヶ所の分院を開設し或は分院室を設け診療業務を完遂せる外土匪討伐に當りては救護班を編成し傷者の收容に當りたることも收容に暇なく其の他天災地変に際しては一般傷病者の收容に或は地方衛生の啓発指導に或は帝國陸軍に於ける熱地作戦に關する研究調査に寄与せり 日支事変の南支に及び次て大東亞戦争の勃発するや南支、南方よりの選

(383)

1580

年月日	概 要
昭二〇初頭 三三 三一	送達者の才一收容病院として其の任を全うせり。然るに 以来敵米空軍の来襲に遭ひ漸く激烈化し の両日大空襲に遭ひ別冊病院史記載の建築物及当時公園に開設中の分院 室建物並施設は殆んど倒壊（灰燼）に帰せたり。以来台南州新化郡南化 庄北寮に本院は移転し新化衛及玉井庄、南化庄等の各地に分院、分病室 を開設し長期持久の防空（疎開）態勢を整へつつありたるも 停戦の詔勅を待し建設工事は中止せり。然れども診療業務は依然施行中 の処
二一 一一 二八	復員令下令せられ 鹿兒島に於て復員完結台南陸軍病院五十年の歴史は終止符を告げたり
昭二九 三	指揮隷属関係及其の変遷の概要 台湾守備混成旅三旅団隷下部隊として編成せられ、次で台湾才二守備隊 の隷下に在りたるも
大一一 四 五	編成改正結果台湾軍司令官に直属し復員に及ぶ 台湾軍の機體酌量充に伴い一時南都兵団（才四十軍、及才二師団）の指 揮下に入りたることあり
昭二〇	

(384)

1581

年月日	
概要	要
	昭二一 一一四 を肉鎖せる外業務と旅行中の処内地帰還準備の爲 病院主力は高崎市に集結し 月 日 同港より乗船帰還す 其の他部隊の経歴中特異と認めらるゝ事項 なし

(386)

1583

二二二六部隊高雄陸軍病院略歴

残務整理者 郭隊長 渡辺 総

年月日	概要
昭一三 不詳	郭隊長歴の概要
一四 九 九	台南陸軍病院高雄分院
一九 八 二	台南陸軍病院高雄臨時分院
一九 九 一〇	軍令陸乙中四五号により、高雄陸軍病院縮成下令
二一 三 一二	縮成完結
二一 三 一二	復員下令
二一 三 一二	復員完結
一九 九 九	指揮職歴関係及び其の変遷の概要
自一九 九 一〇 至二〇 一〇 一六	台南陸軍病院院長職歴
自一九 九 一〇 至二〇 一〇 一六	台湾軍司令官職歴
自二〇 一〇 一六 至二〇 二二 二六	中十二師団長指揮下

年月日	概	要
自二〇一三 至二二二四 二二五	台湾軍司令官隷属 高雄乗船地司令官指揮下	其の他部隊の経歴や特異と認めらるる事項 終戦前は南方よりの入院患者の才一收容とす。就中比島作戦が開始され てより輸送船攻囲を受けたる患者、輸送途次の患者及南方還送患者を收 容し台南、台北陸軍病院に転送す 終戦後、帰還の始まるに及び乗船地病院として先に引上げたる台南、屏 東、嘉義の南部地区の軍医患者と悉く收容す 又居留民患者の輸送と共に該患者とも收容す

(388)

1585

台中陸軍病院

年月日	概要
昭和九七	部隊の情況 終戦前 本院は台中州台中市賴厝廬に在りて分院は台中州新高郡集々街に集々分院、台中州新高郡集々街、拔社埔に拔社埔分院と開設主として台中州下の戦傷病退者の収養に任ぜり、其の収容力は本院約三百名集々分院約五百名拔社埔分院約百五十名なり
昭二〇一三五	終戦後 終戦後漸次分院を閉鎖即ち 拔社埔分院 集々分院を南鎮本院に合流せしめたり
昭二〇一九	又新竹州大湖郡大湖庄ヲニニ矢站病院は 復員に伴い台中陸軍病院の分院となり台湾全島の戦傷病退者及精神病患者 約四百名を収容しありしも
昭二〇一五	台北陸軍病院に転居せられたり

(327)

1586

年 月 日	概 要
昭二一 一下旬	終戦後より、台湾入たる臨時召集者警備召集者の召集解除、台湾より入隊（召集）せし者の除隊（召集解除）を実施し又台湾に於て採用せし軍属（但し内地帰還する者を除く）を解雇（帰）せり 猶終戦後より中国側に引渡すべき軍需品は より二月上旬に接收完了せり 一月下旬より中国監理官台中陸軍病院に常置せられあり
一五 八 一	編成以降部隊の行動経過の概要
一六 一 二 八	台中陸軍病院を開設以来支那事变遷送患者及駐屯地患者の収療に従事し以降大東亜戦争患者の収療に任ぜり、特に
一九 一 一 六	台中州台中市梅ヶ枝町に梅ヶ枝分病室
二〇 一 一 九	台中市新高町に新高分院と
四 一 一	台中州新高郡集々街に集々分院（梅ヶ枝分病室の移駐）
四 一 七	台中州新高郡集々街拔社埔に拔社埔分院を開設戦傷病患者の収療に任ぜり
	特に整理を要すべき事項 なし
	留守名簿と現況との差異なし

業務処理における効果
旧名簿の補備訂正未済なるため今般部隊より貰行せる留守名簿により
処置され度

其の他特記事項

部隊主力出發後入院患者の処理、一部軍傷品引渡処理のため残置せしめ
たる人員別紙連名簿の如し（別紙略）

此等残置人員は將來台灣の兵争部或は他病院に転居せられる予定なり

電信才三十三聯隊

年月日	概	要
昭和 一 二 二 一 一 四	部隊の編成行動の概要 聯隊は軍令陸甲ヲザ一号に據り臨時編成下令 編成完結聯隊長陸軍少佐公良安次聯隊は編成以來才十方面軍台灣地區 台中州以南主要要路幹防犯通信網の構成保守並に有無線による通信実施と 担任し作戦準備に従事す 編成完結後直に才十方面軍に直轄隸属 才四十軍九州移転に伴い才十方面軍に隸属南部集團軍（軍長才七十一師 團長）指導下に入る 南部集團軍解体に據る才十方面軍に直轄隸属す 才十方面軍の戦斗序列解体に據り台灣軍管区司令官の隷下に入る 爾後歸還輸送の爲 軍隊区分と才七十一師團の配属下に入りしめらる 復員状況及残置部隊の概況 通信網の構成と除き終戦前の有無線に依る	

(322)

1589

至 自			
一〇 二五	一〇 二四	一〇 二〇	一〇 二〇
二一 二五	二一 二五	二一 二五	二一 二五
二二 二五	二二 二五	二二 二五	二二 二五
二三 二五	二三 二五	二三 二五	二三 二五
二四 二五	二四 二五	二四 二五	二四 二五
二五 二五	二五 二五	二五 二五	二五 二五
二六 二五	二六 二五	二六 二五	二六 二五
二七 二五	二七 二五	二七 二五	二七 二五
二八 二五	二八 二五	二八 二五	二八 二五
二九 二五	二九 二五	二九 二五	二九 二五
三〇 二五	三〇 二五	三〇 二五	三〇 二五
三一 二五	三一 二五	三一 二五	三一 二五
三二 二五	三二 二五	三二 二五	三二 二五
三三 二五	三三 二五	三三 二五	三三 二五
三四 二五	三四 二五	三四 二五	三四 二五
三五 二五	三五 二五	三五 二五	三五 二五
三六 二五	三六 二五	三六 二五	三六 二五
三七 二五	三七 二五	三七 二五	三七 二五
三八 二五	三八 二五	三八 二五	三八 二五
三九 二五	三九 二五	三九 二五	三九 二五
四〇 二五	四〇 二五	四〇 二五	四〇 二五
四一 二五	四一 二五	四一 二五	四一 二五
四二 二五	四二 二五	四二 二五	四二 二五
四三 二五	四三 二五	四三 二五	四三 二五
四四 二五	四四 二五	四四 二五	四四 二五
四五 二五	四五 二五	四五 二五	四五 二五
四六 二五	四六 二五	四六 二五	四六 二五
四七 二五	四七 二五	四七 二五	四七 二五
四八 二五	四八 二五	四八 二五	四八 二五
四九 二五	四九 二五	四九 二五	四九 二五
五〇 二五	五〇 二五	五〇 二五	五〇 二五
五一 二五	五一 二五	五一 二五	五一 二五
五二 二五	五二 二五	五二 二五	五二 二五
五三 二五	五三 二五	五三 二五	五三 二五
五四 二五	五四 二五	五四 二五	五四 二五
五五 二五	五五 二五	五五 二五	五五 二五
五六 二五	五六 二五	五六 二五	五六 二五
五七 二五	五七 二五	五七 二五	五七 二五
五八 二五	五八 二五	五八 二五	五八 二五
五九 二五	五九 二五	五九 二五	五九 二五
六〇 二五	六〇 二五	六〇 二五	六〇 二五
六一 二五	六一 二五	六一 二五	六一 二五
六二 二五	六二 二五	六二 二五	六二 二五
六三 二五	六三 二五	六三 二五	六三 二五
六四 二五	六四 二五	六四 二五	六四 二五
六五 二五	六五 二五	六五 二五	六五 二五
六六 二五	六六 二五	六六 二五	六六 二五
六七 二五	六七 二五	六七 二五	六七 二五
六八 二五	六八 二五	六八 二五	六八 二五
六九 二五	六九 二五	六九 二五	六九 二五
七〇 二五	七〇 二五	七〇 二五	七〇 二五
七一 二五	七一 二五	七一 二五	七一 二五
七二 二五	七二 二五	七二 二五	七二 二五
七三 二五	七三 二五	七三 二五	七三 二五
七四 二五	七四 二五	七四 二五	七四 二五
七五 二五	七五 二五	七五 二五	七五 二五
七六 二五	七六 二五	七六 二五	七六 二五
七七 二五	七七 二五	七七 二五	七七 二五
七八 二五	七八 二五	七八 二五	七八 二五
七九 二五	七九 二五	七九 二五	七九 二五
八〇 二五	八〇 二五	八〇 二五	八〇 二五
八一 二五	八一 二五	八一 二五	八一 二五
八二 二五	八二 二五	八二 二五	八二 二五
八三 二五	八三 二五	八三 二五	八三 二五
八四 二五	八四 二五	八四 二五	八四 二五
八五 二五	八五 二五	八五 二五	八五 二五
八六 二五	八六 二五	八六 二五	八六 二五
八七 二五	八七 二五	八七 二五	八七 二五
八八 二五	八八 二五	八八 二五	八八 二五
八九 二五	八九 二五	八九 二五	八九 二五
九〇 二五	九〇 二五	九〇 二五	九〇 二五
九一 二五	九一 二五	九一 二五	九一 二五
九二 二五	九二 二五	九二 二五	九二 二五
九三 二五	九三 二五	九三 二五	九三 二五
九四 二五	九四 二五	九四 二五	九四 二五
九五 二五	九五 二五	九五 二五	九五 二五
九六 二五	九六 二五	九六 二五	九六 二五
九七 二五	九七 二五	九七 二五	九七 二五
九八 二五	九八 二五	九八 二五	九八 二五
九九 二五	九九 二五	九九 二五	九九 二五
一〇〇 二五	一〇〇 二五	一〇〇 二五	一〇〇 二五

通信実施を其の儘担任実施す

一四二名の人員を以て軍長区司令部並に各兵団間通信実施担任、主力
（本部三中队、材料廠は嘉義附近）一中隊は台中附近、ヲニ中队は
屏東附近、ヲ四中队は棋山附近）は現地自活農耕に従事その間約三ヶ月
名を以て新竹市以南の主要都市通信部、通信網、戦災復旧工事作業を完
成す

ヲ一中隊台中市より北斗街に移転帰還の輸送に伴い

現地自活農耕及戦災復旧工事のための派遣人員を全面的に撤収す

ヲニ中队屏東市より嘉義市に移転集結

ヲ四中队棋山より嘉義市に移転集結

乗船地基隆港に集結

以降断隊主力帰還後、無線分隊三個分隊（将校以下四十四名）を残置し

軍人一般邦人帰還輸送のための連絡に生ぜしむ 尚居留民引上援助のため

将校以下四十九名基隆乗船地司令部台中及び新竹兵事部に残置す（但し人

員は夫々の該各部に転属せしめたり）

基隆港出発

大竹上陸

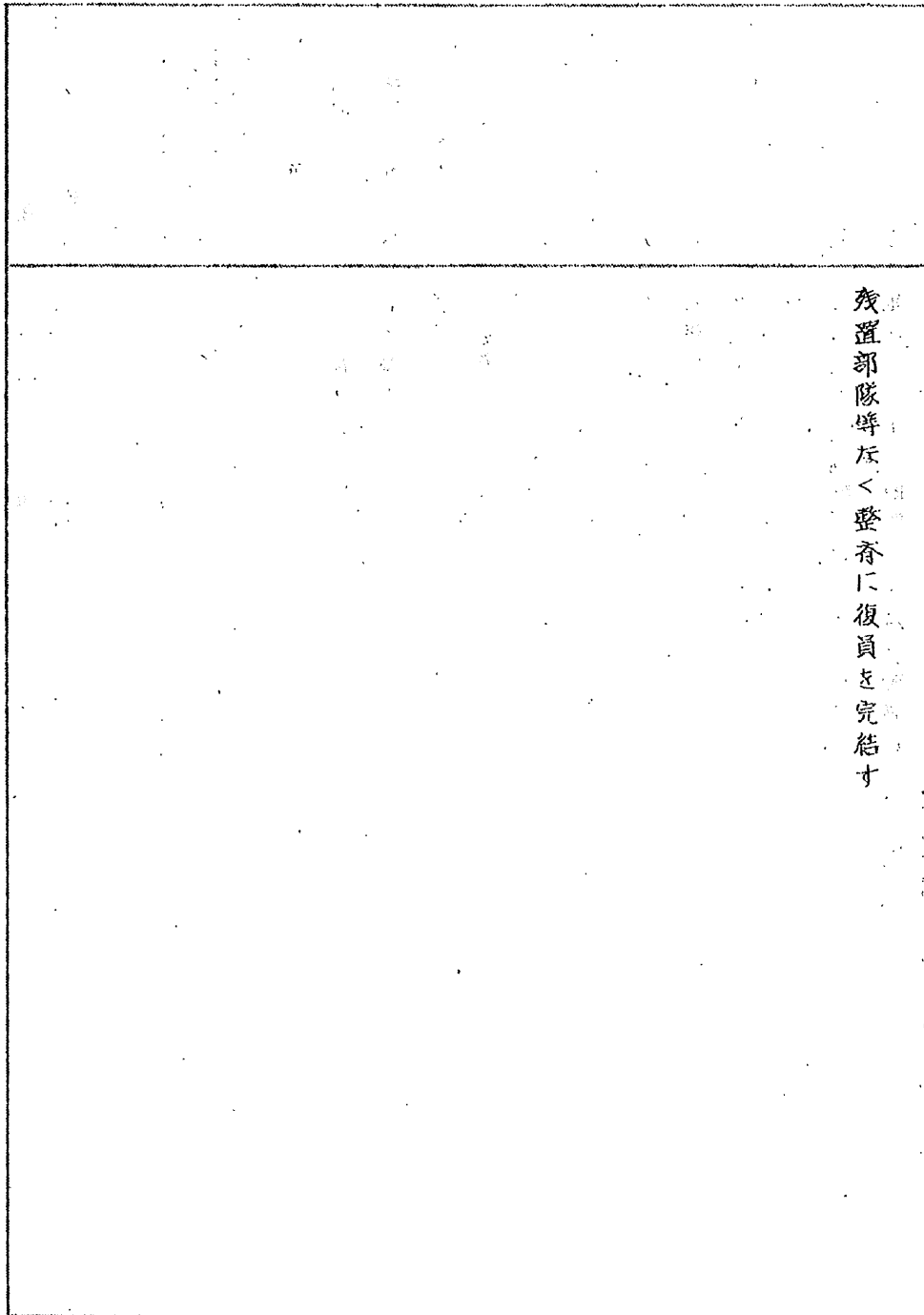
復員完結す

台南陸軍兵事部

年月日		概	要
昭一四	八一	部隊の編成行動の概要	
		台湾軍司令部に於て編成	
		同日より台南市に於て事務開始	
		編成 陸軍兵事部条例に依り編組せらる	
		創立と同時に台湾軍司令官に直属し	
		在台南市民引揚業務處理の爲台南連絡支部に配属	
至	自	居市民引揚業務に従事	
	二一		
	二二		
	二七		
四	四	台南連絡支部の配属を脱し台湾軍司令官の直属に復帰	
	六		
		復員状況及残置部隊の概況	
		復員下令	
		高雄港出港	
		宇品港上陸	
		復員完結	
四	四		
	一三		
	一三		
	七		
	一		

外

(274)



残置部隊等
に整齊に復員を完結す

(395)

1592